

役割語としての新しい人称代名詞 *pòm*

— タイ語役割語研究事始め —

A New Thai Personal Pronoun *pom* as “Role Language”:

The Pilot Study of “Role Language” on Thai

伊藤 雄馬*

ITO Yuma

This is a pilot study on Thai’s ‘role language’ (yakuwari-go), which is sets of speech characters related with the images of speakers; e.g. *phom* related with male speakers and *dichan* related with female speakers. The purpose of this paper is to discuss a new personal pronoun, *pom*, which might have been derived recently from a first singular personal pronoun *phom* and have never been mentioned so far in any dictionaries. At first, because of the absence of description of *pom*, we inspect the literatures written by Standard Thai, such as books, comics, and comments on web pages in order to ascertain that this new pronoun is used in Standard Thai. Second, considering the usage of *pom* and the result of interviews for Thai native speakers, we conclude that *pom* is a ‘role language’ related with the image of infant boys. It means that *pom* might be regarded as an independent form from *phom* in terms of the function of role language. In addition, we suggest that what evokes the image of infant boys should be the deaspiration at the onset of the pronoun, that is, the onset of *phom*, ph-, changes into p- in *pom*. Finally, we propose two hypotheses about this phenomenon, baby-talk hypothesis and dialect-hypothesis. However, we cannot conclude that which hypothesis is more adequate to explain the phenomenon. This topic needs to be discussed in more depth.

はじめに

本稿は、標準タイ語の一人称代名詞 *phòm* (พ่) から最近派生したと考えられる *pòm* (ป๋) を「役割語 (role language)」の観点から記述し、分析を試みる。

役割語は、日本の言語学者である金水によって提唱された概念で、おおまかに以下のように定義されている [金水2003: 205]。

(1) ある特定の言葉遣い (語彙・語法・言い回

し・イントネーション等) を聞くと特定の人物像 (年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等) を思い浮かべることができる時、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができる時、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

例えば、日本語で「わしの考えはこうじゃ」という言葉遣いは、<博士>という人物像を想起させるだろう (以下から、役割語によって表されて

*京都大学非常勤講師

いる役割を〈〉に括って示す)。同様に、例えば〈女性〉という人物像からは、「わたしの考えはこうだわ」という言葉遣いが想起される。このように、ある人物像と分かち難く結びついている特定の言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。役割語は、創作物やフィクションの世界において顕著に観察され、登場人物の人物像を有効に提示するために用いられる。

ただし、役割語が必ずしも現実の反映ではない、という点に注意されたい。現実世界における「博士」とされる人々が例外なく自称に「わし」を用いるということが事実ではないのは明らかである。それゆえ、役割語は一種の虚構であり、ステレオタイプと言える。

役割語がステレオタイプであることは、役割語を研究対象として貶めるものではなく、むしろその学際的な側面を強調する。つまり、役割語は社会文化的構造や歴史的背景に説明を求めうる言語現象であり、同時に、役割語を探求することは文化や歴史を考察する上で重要な資料を提供しうる。その意味で、役割語研究は地域研究の一部を担うと筆者は考える。

役割語研究は日本語を主な対象としてきたが、近年では英語、ドイツ語、朝鮮語など、日本語以外の言語にも対象を広げつつある [山口2007, 細川2011, 鄭2007]。本稿の扱うタイ語もジェンダーによる語彙の使い分けが存在することから、役割語研究の潜在的可能性が指摘されてきた [金水2013]。しかし、タイ語を対象とした役割語研究はこれまで現れていない。よって、本稿はタイ語を対象にした初めての役割語研究となる。

本稿で対象とするのは、タイ国の教育、メディアにおいて用いられている、標準タイ語 (Standard

Thai) である。推定話者数は8,000～9,000万人であるが [Diller 2008: 31]、母語話者は20世紀後半の段階でタイ国の人口の19.5%に留まるとみられる [Smalley 1994: 367]。系統は伝統的にはタイ・カダイ語族、南西タイ諸語 (Southwestern Tai) に分類されるが、議論の余地を残す [cf. Li 1977, Pittayaporn 2009]。

本稿では標準タイ語の一人称代名詞を主に扱う。本稿が一人称代名詞を対象とするのは、役割語の機能が最も顕著に観察されるためである。

例えば、男の一人称である phǒm (ผม) と (大人の) 女の一人称である dichǎn (ฉัน) は、それぞれ、phǒm が〈男〉、dichǎn が〈女〉を想起させる役割語であると言える。その他にも、仏僧のみが用いる一人称代名詞である ?àattamaa (อาตมา) なども役割語と判断できよう。このように標準タイ語の人称代名詞は、役割語の研究対象として相応しいといえる。

本稿の構成は以下のとおりである。本章に次ぐ2章では、pǒm が標準タイ語の中に確かに存在することを確認する。3章では、pǒm を役割語の観点から分析し、〈幼児語〉であることを示す。4章では、pǒm が〈幼児語〉を表す理由について考察し、仮説を提示する。5章はまとめである。

2. 新しい人称代名詞 pǒm の記述

本節では、標準タイ語の人称代名詞の中でも比較的最近登場したと考えられる pǒm について取り扱う。まず pǒm が現代標準タイ語に存在することを確認し、次いでその役割語的機能について記述する。

(1) pǒmの存在確認

pǒmは、管見の限り、どの辞書・文法書にも記載されていない。タイ語の人称代名詞を網羅的に扱った論文 [Cooke 1986]、伝統的なタイ語文法書 [Noss 1964]、比較的最近の文法書 [Iwasaki & Ingkaphirom 2005, Smyth 2014]、最古期の辞書 [Bradley 1873]、比較的最近の辞書 [富田 1992, Matichon 2004, Ratchabandittayasatan 2013] を確認したが、いずれにも記載のない語であった。よって、まず以下の問を立てる。

問1：pǒmは標準タイ語に存在するのか？

以下では、文献、コーパス、漫画、インターネットからpǒmが標準タイ語の中に観察できることを示す。

1) pǒmに言及のある文献

管見の限り、pǒmはタイ人研究者のルーンルタイによる言及があるのみである [Ruenruethai 2006]。ルーンルタイは、現代のタイ語において、新しい綴りや語彙が観察できることを指摘している。例えば、 ń を ńǎ (共にkǎw)、 m̄ を m̄ǎ (共にnǔu) と表記する例を挙げている。これらの例と並んで、pǒm (ป๋ม) はphǒm (พ๋ม) の新しい綴りとして紹介されている。

ただし、pǒm (ป๋ม) とphǒm (พ๋ม) の例は、綴りのみだけでなく、音価をも別にする点で、 ń と ńǎ 、 m̄ と m̄ǎ の関係とは異なる。pǒm (ป๋ม) とphǒm (พ๋ม) は、語頭の子音がそれぞれ無声無気音 (p-, ɸ)、無声有気音 (ph-, ɸ̄)、と別の音素であり、綴りのみが違い、音かは同じである ń と ńǎ などの例とは異なる。よって、pǒm (ป๋ม) とphǒm (พ๋ม) はそれぞれ

れ独立した別々の形式として解釈される余地を残している。

いずれにせよ、ルーンルタイはphǒmと関連のある形式としてpǒmの存在を認めていることが分かる。

2) Thai National Corpus

次に、タイ語の電子コーパスにおいてpǒmが見られるかどうか確認する。使用するコーパスは、タイのチュラロンコーン大学が提供するThai National Corpus (以下TNC) である。このコーパスの検索機能を用いてpǒmを検索した。結果、9例¹⁾のみであるがpǒmの用例を確認できた。以下に例を挙げる²⁾。一列目はタイ文字表記、二列目は音韻表記、三列目は意味を記したグロス表記である³⁾。

(2) เจนนี่	มี	ข้อเสีย	เยอะ
ceennii	mii	khǎw-sǎa	yǎw?
ジェンニー	ある	欠点	多い

กว่า	ป๋ม	เยอะ
kwàa	pǒm	rǎw
より	POM	QP

「ジェンニーは僕 (pǒm) より欠点が多いの？」

เจนนี่	ว่า	ป๋ม	จะ	อกหัก
ceennii	wàa	pǒm	cà?	?òk-hàk
ジェンニー	COMP	POM	CM	失恋する

มี⁴⁾
máy
QP

「ジェニーは僕 (pǒm) が失恋すると思う？」

分布や文脈をみる限り、pǒmは一人称代名詞として用いられていると判断できる。ただし、pǒmの使用者がどのような人物であるかは、コーパス内の情報では判断できなかった。

3) タイ語版『クレヨンしんちゃん』

タイ語に翻訳された漫画『クレヨンしんちゃん』⁵⁾の主人公である野原しんのすけは、自称に pǒm を用いている⁶⁾。

(4) ของว่าง ป่อม ล่ะ กับ
khǒng-wáang pǒm lâ? káp
おつや⁷⁾ POM QP SLP
「おらのおつやは？」

(*Khreyon chinchan*, 11 : 9)

(『クレヨンしんちゃん』 11 : 9)

この pǒm は日本語版の「おら」の部分に相当することから、一人称代名詞であると判断する。なお、pǒm の初出である11巻では、22回の pǒm の使用が確認できる。この『クレヨンしんちゃん』に見られる pǒm は3.2節で再度取り上げる。

4) ウェブ上の書き込み等

ウェブ上で pǒm が観察されるかどうか調査した。検索エンジンの Google (Thailand) を用いて、完全一致検索で pǒm を調べたところ、2015年2月14日現在で、1,360,000件のヒット数があった。この中には、完全一致検索であるにも関わらず、pam (ป้าม)、pom (ปอม) などのノイズも相当数含まれるため、数字については参考にならないが、こ

の検索結果によりネット上において pǒm の使用が一定数確認できたと考える。以下に検索で見つかった pǒm の用例の一部を挙げる。

(5) ป่อม ใจดี
pǒm cay-dii
POM 優しい

「僕 (pǒm) は優しい」

(Twitterのアカウント名⁸⁾)

(6) ป่อม มา เข้า ห้องเรียน ทัน
pǒm maa khâw hǒng-rian than
POM 来る 入る 教室 間に合う

นะ ครับ วันนี้
ná? khráp wan-ní
PP SLP 今日

「今日、僕 (pǒm) は教室に間に合いました。」
(i-ba7799による書き込み ความคิดเห็นที่ 10⁹⁾)

(7) ป่อม ไม่ ใช่ ผู้วิเศษ
pǒm mây chây phûu-wisèet
POM NEG そう スーパーマン

「僕 (pǒm) はスーパーマンじゃない」

(動画タイトルの一部¹⁰⁾)

TNCでの観察と同様、分布や文脈をみる限り、pǒmは一人称代名詞として用いられていると判断できる。

Google検索では、一人称代名詞の用法の他に、khrápphǒm (ครับผม) という形式の一部として pǒm が表れている例を多く観察できた。khrápphǒm は khráp より丁寧な形式であり、文末、もしくは返

答に用いられるものだが〔富田 1997: 287r〕、この後部要素にある *phǒm* が *pǒm* になっているものが検索結果の中には多く含まれていた。以下に、筆者が観察できたバリエーションを挙げる。

- (8) • *khǎppǒm* (คห้บปม, คห้บปมม)
 • *khǎappǒm* (คห้บปม)
 • *kháppǒm* (คห้บปม, คห้บปม, คห้บปมมมม)
 • *kháappǒm* (คห้บปม)
 • *káppǒm* (คห้บปม, กห้บปม)
 • *ŋáppǒm* (จห้บปม)
 • *ŋáappǒm* (จห้บปม)

ここで見られる *pǒm* は文末詞の一部であり、人称代名詞としての機能はないと思われるため、本稿では扱わないこととする。ただし、この *khǎppǒm* などの用例は頻度が高いこと、また人称代名詞の *pǒm* ともなんらかの関係がある可能性もあると考えられることから、今後何らかの考察が必要であろう¹¹⁾。

5) 小結1

本小節では、以下の問いに答えようとした。

問1: *pǒm* は標準タイ語に存在するのか?

文献の記述から、*pǒm* は *phǒm* と関連する形式として紹介されていた。また、コーパス、漫画、ウェブ上において、*pǒm* が一人称代名詞として用いられている例を複数観察できた。以上の観察から、問1に対して以下のように答えることができる。

答1: *pǒm* は一人称代名詞の用法を持つ形式として現代標準タイ語に存在する。

3. 役割語としての *pǒm*

pǒm の存在を現代標準タイ語に認めた今、次に問うべきは *pǒm* の意味であろう。これまでの観察からは、一人称代名詞であることが分かった。また、形式から *pǒm* が *phǒm* と関連のある形式であることも明らかであろう。よって、本節では以下のように答えることを目的とする。

問2: *pǒm* は *phǒm* と意味が異なるか? 異なるとすればどのように違うのか?

この問2に対して、タイ語母語話者へのインタビューと、タイ語に翻訳された『クレヨンしんちゃん』の例をもとに考察する。

1) タイ語母語話者へのインタビュー

pǒm について、タイ語母語話者へのインタビューを実施した。協力者は、対面調査によるインタビューが4名(20代男性、30代男性、20代女性、40代女性)、メールによるインタビューが11名、合計15名である。

質問は以下の2点とした。1点目は、「*pǒm* という語を見たことがあるか?」という質問である。対面調査の場合、*pǒm* を質問者が発音し、また綴りを見せて、質問した。メールでの調査では、綴りを見せて、「漫画やネット上で見かけた語である」という予備情報を与え、見たことがあるかどうかを尋ねた。2点目の質問は、「*pǒm* は *phǒm* と意味が異なるか? 異なるとすればどのように違う

か？」という質問である。なお、1点目の質問で、協力者が pǒm を知らないことも想定される。その場合は、「一人称代名詞の phǒm の異なる綴りであり、『クレヨンしんちゃん』の野原しんのすけの自称に見られた」ことを伝え、恣意的にはなるが2点目の「意味の違い」を問う質問に移ることとした。

まず、1点目の質問について、15名中14名が「pǒmを見たことがある」と回答した。唯一、対面調査での40代女性が見たことがない、と回答したが、pǒmが『クレヨンしんちゃん』において、野原しんのすけの自称として用いられていたことを伝え、と、「phǒmを意図的に書き換えたものだろう」との回答が得られた。

2点目の「意味の違い」についての質問は、全ての協力者から同趣旨の回答を得ることができた。すなわち、「男児の舌足らずな発音 (เสียงหัวเราะของเด็กผู้ชาย)」、「子供の言い間違い (พูดผิดของเด็ก)」という回答である。興味深いことに、pǒmをこれまで知らなかった40代女性の協力者でさえ、他の協力者と同じように pǒmは「男児の舌足らずな発音である」と判断した。

以上の結果から示唆されることは、以下の3点である。1点目は、pǒmが現代タイ語に確かに存在しているということである。これは、最初の質問で、15名中14名が pǒmを見たことがあったと回答したことによる。前章で示唆された pǒmの存在が、ここでも追認されたことになる。

2点目は、pǒmがタイ語の規範的な語ではなく、一種の誤りとして認識されている可能性の高いことである。最初の質問で、40代女性が pǒmを「phǒmの意図的な書き間違い」と判断したこと、及び「意味の違い」を問うた質問において、「男

児の舌足らずな発音である」や「言い間違い」という回答であったことによる。

3点目は、pǒmが「男児」を想起させる役割語と判断できることである。今回インタビューを受けたタイ語母語話者全員が、pǒmという形式から、「男児」という話し手像を想起したことがその根拠である。特に、pǒmという形式を見たことのないタイ人母語話者が pǒmを「男児の舌足らずな発音である」と、話し手を「男児」に特定した回答をした点は強い根拠になりうる。つまり、「phǒmを pǒmと言い間違えるのは、幼い子どものみで見られるもので、大人はこのよう言い間違えはしない」という認識が見て取れる。この認識は、極めて役割語的である。以上から、pǒmは<幼児語>という役割語である、と判断する。

また、日本語上級者である協力者1名から、pǒmは「あたし」に対する「あたり」のようなものである、というコメントを得た。日本語の「あたり」は<幼児語>であるとされている[金水2014: x]。この指摘も、pǒmが<幼児語>であることを支持するものである。

2) 『クレヨンしんちゃん』にみられる pǒm

『クレヨンしんちゃん』のタイ語版で、主人公の野原しんのすけは、自称に pǒmを用いていることは前述した。野原しんのすけは、作中では5歳の幼稚園児という設定である。よって、野原しんのすけが pǒmを自称に用いることは、pǒmが<幼児語>であるという主張を支持するものと思われる。

しかし、いくつか疑問も残る。まず、pǒmを用いるのが作中内では野原しんのすけに限定されている点である。『クレヨンしんちゃん』に登場す

る「幼い男の子」は、野原しんのすけだけではない。同じ幼稚園に通う、風間トオル、佐藤マサオといった登場人物も同じく5歳児の男の子である。しかし、彼らはpǒmを用いず、もっぱらphǒmを自称に用いている¹²⁾。この差異はどのように説明されるべきだろうか。

これは、野原しんのすけのキャラクターを考えると解決できると考える。作中で、野原しんのすけは言い間違いを頻発するキャラクターとして描かれている。先の例では、「おやつ」を「おつや」と言い間違えており、他にも「ただいま」と言うところを「おかえり」、「バドミントン」を「バミトントン」と言い間違えるなどの例が作品中に見られる。先のインタビュー結果で、タイ語母語話者からpǒmは「言い間違い」という回答があったが、野原しんのすけの自称にpǒmを用いることで、彼が幼児であることだけでなく、言い間違いの多いキャラクターであることも演出しようとした意図があったと解釈する。このように考えた場合、同年代の登場人物がpǒmを用いない理由を、「彼らは、野原しんのすけと違い、言い間違いをするキャラクターではないから」と説明することができる。

ここまでの議論で、特に日本語版『クレヨンしんちゃん』の読者からは、ある反論が想定されうる。日本語版での野原しんのすけの自称は一貫して「おら」である。そうであるならば、pǒmは「おら¹³⁾」を機械的に翻訳したものではないか、という反論である。しかし、この反論は別の漫画『ドラゴンボール』を見ることで誤りであるとわかる。

『ドラゴンボール』の主人公、孫悟空は、野原しんのすけと同じく自称が「オラ」である。しか

し、タイ語版『ドラゴンボール』では、孫悟空の自称は主にraw¹⁴⁾などが用いられており、pǒmは使用されていない。

(9) มี คน หนึ่ง กว่า เก้า
mii khon kèŋ kwàa raw
いる 人 強い より 1.SG

มีเยอะ เลย...

yǎŋ-yé? ləy

多い EMPH

「オラよりつよいやつっていっぱいいるんだな…」

(Dragon Ball 7: 162)

(『ドラゴンボール』7: 162)

よって、『クレヨンしんちゃん』の野原しんのすけが使うpǒmが日本語の「おら」を機械的に翻訳したものではないことが分かる。

3) 小結2

本節は以下の間に答えようとしてきた。

問2：pǒmはphǒmと意味が異なるか？異なる
とすればどのように違うのか？

以上の議論により、問2に対して以下のように答えることができる。

答2：pǒmとphǒmは役割語的意味について異なる。pǒmは「幼い男の子」と結びついており、phǒmは「男性」と結びついている。

pǒm と phǒm のこの違いを、これまでの役割語研究の枠組みで捉えてみよう。金水は、役割語をいくつかの種類に分類している [金水 2014]。分類とそれぞれの例の一部を以下に挙げる。

- (10) 【性差】 <男ことば> 「おれ」、<女ことば> 「あたし」など
 【年齢・世代】 <老人語> 「わし」、<幼児語> 「あたり」など
 【職業・階級】 <軍隊語> 「自分」、<遊女ことば> 「あちき」など
 【地域】 <田舎ことば> 「おら」、<九州弁> 「おいどん」など
 【時代】 <武士ことば> 「拙者」、<公家ことば> 「まる」など
 【人間以外】 <神様語> 「我」、<宇宙人語> 「ワレワレ」など

この分類を用いて、phǒm と pǒm の違いを記述する。phǒm は「男性」と結びつく役割語であるので【性差】を表す<男ことば>のひとつと考えられる。一方、pǒm は、phǒm と同じく、【性差】の<男ことば>であるが、それに加えて、【年齢・世代】に分類される<幼児語>でもあると言える。

その関係を図式化すると以下のようにできるだろう。

- (11)
- | | | |
|--------|---|-----------------|
| phǒm | → | pǒm |
| <男ことば> | | <男ことば>
<幼児語> |

この事実、pǒm が phǒm から独立しているこ

とを示めている。確かに、pǒm は phǒm の「言い誤り」とタイ語母語話者に認識されていること、また辞書や文法書に記載のない形式であることから、標準タイ語の「正式」な語と判断するのは躊躇われる。しかし、役割語として pǒm と phǒm を比べた場合、2つは別々の機能を担っており、また語頭の音も別の音素から成っていることから、これらの点において、pǒm と phǒm をそれぞれ独立した形式として扱う立場は十分可能であると考ええる。

4. pǒm が<幼児語>となるメカニズム

pǒm が<幼児語>を表す役割語であり、その点で phǒm と独立していることを前節では示した。次に考えたいのは、以下の問である。

問3：pǒm が<幼児語>を表すメカニズムは何か？

インタビューで、pǒm を初めて見たタイ語母語話者でさえ、それを「男児」という話し手像と結びつけることができた。なぜ、母語話者はこのような推測をすることができたのだろうか。

(1) <幼児語>を演出する「無気化」

phǒm と pǒm の形式上の違いは、語頭の子音のみで、しかも氣息の有無のみ (ph→p) であることが分かる。よって、この「無気化」が<幼児語>を想起させていると予想できる。

(12)

phǒm — 無気化 → pǒm
 <男ことば> <男ことば>
 <幼児語>

実は、「無気化」によって、<幼児語>を演出している例はpǒmの他にも観察できる。例えば、文末詞kápである。

(13) : (4) の再掲

๒๑๑-๖๖๑	ป๋ม	ล่ำ	กั๊
khǒŋ-wáaŋ	pǒm	lâ?	káp
おつや	POM	QP	SLP

「おらのおつやは？」

(*Khreyon chinchān*. 11 : 9)

(『クレヨンしんちゃん』 11 : 9)

文末詞kápは、声調を含めた形式、文末という位置、また文脈から予想される意味から、<男ことば>である文体小辞のkhráp、ないしkháp¹⁵⁾が、無気化した形式だと考えられる。このkápについて、タイ語母語話者に尋ねたところ、「子供の言い誤りである」というpǒmと同様の認識が示された。よって、このkápも<男ことば・幼児語>と考えられる。

(14)

khráp / kháp — 無気化 → káp
 <男ことば> <男ことば>
 <幼児語>

この他にも、動詞のchǎai (๒๓๒) 「上映する」の意味でcǎai (๒๓๒) [『クレヨンしんちゃん』 4 :

147] という形式が野原しんのすけの台詞に観察できる。この例も、ch-とc-で語頭の無気化が見られる。このcǎaiという形式もまた、タイ語母語話者によって<幼児語>と判断された。

(15)

chǎai — 無気化 → cǎai
 <幼児語>

以上で見た、phǒmとpǒm、kh(r)ápとkáp、そしてchǎaiとcǎaiは、いずれも語頭の無気化が<幼児語>を引き起こしている例であった。この仕組みを以下に図式化して示す（ここではCは子音を表す）。

(16)

Ch- — 無気化 → C-
 <大人語> <幼児語>

つまり、語頭の無声化が<幼児語>を演出していると一般化できる。

(2) 小結3

ここで答えようとしていたのは、以下の問3についてであった。

問3 : pǒmが<幼児語>を表すメカニズムは何か？

『クレヨンしんちゃん』に見られる例を見ることで、本稿は以下のように結論付ける。

答3 : 語頭子音の「無気化」が<幼児語>を想

起させている。

(3) 「無気化」が<幼児語>を想起させる理由

ここまで、語頭の「無気化」が<幼児語>を想起させていると考えた。では、なぜ「無気化」が<幼児語>を演出するのだろうか。

問4：「無気化」が<幼児語>を演出するのはなぜか？

この問4に対して、これまでの役割語研究から想定できる2つの仮説、すなわち「幼児語仮説」と「方言仮説」を検証する。

1) 幼児語仮説

「幼児語仮説」とは、幼児に見られる発音の特徴が<幼児語>を表現する役割語に反映されていると考える説である。

例えば、日本語には「あたり」という<幼児語>がある。これは「幼児語仮説」によって説明できる。「あたり」が「あたし」と異なる点は、最後の「し」の音が「ち」に変わっている点である。この「ち」の音は、言語習得において75%の幼児が2歳前半で発音できるようになる音であるが、一方で「し」は75%の幼児が3歳前半から後半まで発音の習得を俟たなければならない音である[野田他 1969]。つまり「し」の方が「ち」よりも1年ほど習得の遅い音であることが分かる。また、幼児の言い間違えの中に、「し」の音を「ち」の音で発音するものが見られることも報告されている。以上から、幼児の発音の特徴の一つとして、「し」の音を「ち」の音と言い間違える、という特徴を挙げることができる。「あたり」はその幼

児特有の発音を利用した<幼児語>であると考えることができる。これが「幼児語仮説」である。

では、タイ語ではどうだろうか。言語学者のガンダーらは、タイ語を母語とする3歳児・5歳児・7歳児の閉鎖音発音時の声立て時間（口腔内の閉鎖が開放される時点から声帯が振動するまでの時間, Voice Onset Time）を計測し比較した[Gandour et al. 1986]。タイ語の音韻体系は、両唇と歯茎の破裂音に有声音、無声無気音、無声有気音の3系列が認められる。声立て時間でこの3系列を捉えると、有声音、無声無気音、無声有気音の順番に声立て時間が長くなる。

(17)：声立て時間の相対的長さ

b	<	p	<	ph
d	<	t	<	th

ガンダーらの実験によれば、3歳児の発音において、無声無気音と無声有気音の声立て時間がオーバーラップしている。つまり、3歳児は氣息の有無による対立 (p- vs. ph-) を発音の際に区別できないことが示唆された。

(18)

3歳児	p	ph
5歳児	p /	ph
7歳児	p /	ph
成人	p /	ph

つまり、3歳児程度の男児の発話には、pòmの言い間違えとして pòm という形式が観察できる可能性を指摘できる。よって、pòm は「幼児語仮説」による説明が成り立つ形式であると言える。

ただし、幼児語仮説には問題がある。ガンダーらは、3歳児・5歳児・7歳児の全ての年齢において、有声音と無声無気音の声立て時間がオーバーラップしていることも明らかにしている。つまり、3歳児・5歳児・7歳児の全ての発達段階において、有声音と無声無気音が発音上区別できていないことが分かる。

(19)

3歳児	b	p	ph
5歳児	b	p /	ph
7歳児	b	p /	ph
成人	b /	p /	ph

このことは、3歳児・5歳児・7歳児の全ての年齢において、有声音と無声無気音を誤って発音する可能性を示している。つまり、「幼児語仮説」は、この有声音、無声無気音による〈幼児語〉の存在も予測する。例えば、有声音を持つ語彙を無声無気音にすることで、〈幼児語〉を表すような例である。

しかし、有声音と無声無気音を入れ替えることによって、〈幼児語〉が演出されている例は、今のところ筆者は観察できていない。よって、存在しない可能性のある〈幼児語〉まで予測する点において、「幼児語仮説」は問題であるといえる¹⁶⁾。

2) 方言援用仮説

「幼児語仮説」の問題を回避できる代案として、「方言援用仮説」を挙げる。

方言などの【地域ことば】が他の分類の役割語に遷移することは日本語の役割語にも見られる。例えば、日本語では〈九州弁〉の「ごわす」が〈

相撲取りことば〉に遷移していることが挙げられる〔金水 2014: 86-89〕。これと同様の現象がタイ語にもみられることと予想する。

タイ語の方言は、一般的に4つの方言に大別される。すなわち、中央方言、北方言、東北方言、南方言である¹⁷⁾。本稿では、この中でも北方言に注目する。

北方言は、チェンマイを中心に、チェンライ、ランパーン、ナーン、パヤオ、プレーで主に話される方言群を指す。北方言の話される地域は13世紀からランナータイ王国などの独自の文化圏を形成している地域で、タイ王国に統合された現在でも中央とは異なる独自の言語文化を保持している。

北方言を他の方言群と区別する最も顕著な特徴は、タイ祖語において有声音であった子音群（いわゆる低子音類）が、他の方言群では無声有気音になるのに対し、北方言では無声無気音になることである〔三谷 1989: 5361〕。

(20)

祖語	中央	北	
*bɔɔ1	> phɔɔ	:	pɔɔ 「父」
*dɛɛ2	> thɛɛ	:	tɛɛ 「真の」
*jaan2	> cháan	:	cáan 「象」
*gon	> khon	:	kon 「人」

標準タイ語は中央方言を基に形成された言語である。つまり、標準タイ語の語頭に無声有気音を持つ形式を「無気化」とすると、北方言の形式が得られることになる。

この関係はphǒmとpǒmの対応関係と一致する。「方言援用仮説」では、この標準タイ語と北方言

の対応関係を〈幼児語〉に援用したと考えるわけである。

この仮説では、「無気化」のみを予測し、「幼児語仮説」において問題となった有声音と無声無気音を混同する例は予測しない。この点において、「方言援用仮説」は「幼児語仮説」より優れている。

一方で、なぜ北方言が〈幼児語〉と結びついたのであるかが問題となる¹⁸⁾。さらに、「方言援用仮説」では北方言に特有の語彙が〈幼児語〉として用いられることを予測するが、そのような例が観察されておらず、新しい問題となってしまふ。

3) 2つの仮説に共通する「規範からの逸脱」

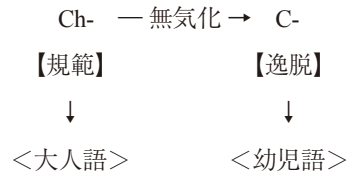
「無気化」が〈幼児語〉を表すメカニズムについて、「幼児語仮説」と「方言援用仮説」を検証してきたが、どちらの仮説にも問題があり、現時点でどちらが妥当かを判断するのは難しいことが分かった。

ただし、この2つの仮説は排他的な関係にあるわけではないことに注意されたい。両方の仮説が要因となって pöm を〈幼児語〉たらしめているとも考えられなくはない。

例えば、2つの仮説は、「規範からの逸脱」という点で共通しているように見える。「幼児語仮説」の場合、「無気化」は幼児特有のいい誤りであり、大人のする「正しく規範的な発音」ではないと認識されているとも言える。「方言援用仮説」では、なぜ北方言らしさが〈幼児語〉を演出しているのが問題として残っていたが、標準語という「規範」から外れているという特徴が〈幼児語〉たらしめている、と考えることもできる。

以上の仮説を図式化すると以下のようにできる。

(21)



ただし、この考えも積極的な根拠を持つものではない。

4) 小結

本節は以下の問4に答えることを目的としていた。

問4：「無気化」が〈幼児語〉を演出するのはなぜか？

本稿では、「幼児語仮説」と「方言援用仮説」を挙げ、検証した。しかし、どちらにも問題があり、この問に対して明確な答えを与えることができなかった。

また、どちらかの仮説に換言できるものではない可能性もあり、その場合「規範」からの逸脱という特徴により〈幼児語〉が演出されている可能性にも言及した。よって、問4は今後の課題として残る。

答4：「幼児語仮説」、「方言仮説」、もしくはその両方によって、「無気化」が〈幼児語〉を演出している可能性を指摘できる。

5. 結語：まとめと課題

本稿の主張をいかにまとめる。

- pǒmはphǒmから派生した一人称代名詞であり、創作物やインターネット上の書き込みなどに観察することができる。
- pǒmは<男ことば・幼児語>という役割語的意味を持ち、その点でphǒm<男ことば>から独立している。
- pǒmが<幼児語>を表すのは、語頭の「無気化」が原因である。
- 「無気化」が<幼児語>を表す理由に、「幼児語仮説」と「方言援用仮説」、またその両方が関係している可能性が考えられる。

今後の課題を挙げる。pǒmがいつ頃現れ、またどのように伝播しているのかは本稿では取り扱わなかった。新語の発祥を知るのは易しいことではないが、今後、翻訳者へのインタビューなどを通して、部分的にでも明らかにできると考えている。また、タイ語版『クレヨンしんちゃん』の野原しんのすけは、自称にpǒmだけでなく、phǒmやchánなども用いている点で、「おら」を一貫して用いる日本語版と異なる。このタイ語版と日本語版の差異が何を意味しているのか、議論する必要がある。

また、khráppǒmなどの文末詞に見られるpǒmについても同様にその起源や<幼児語>の機能があるのかどうかなど、検証が必要だろう。

本稿は「役割語研究事始め」とし、コンパクトな内容にするために人称代名詞の内pǒmとその周辺を対象を限定した。しかし、タイ語の役割語をより理解するためには、人称代名詞という体系全

体について検討することが必要であろう。今後の課題とする。

略号

1	一人称
COMP	補文節導入辞 (complementizer)
CM	試行可能性標識 (challengeable marker)
EMPC	強調標識 (emphasize marker)
NEG	否定標識 (negative marker)
PP	語用論的小辞 (pragmatic particle)
QP	疑問小辞 (question particle)
SG	単数 (singular)
SLP	文体小辞 (speech level particle)

注

- 1) コーパスに見られる例は9例あるが、出典は2点のみであり、前節で挙げたルーントタイの著作から1例と、残り8例はมนตรีรักออนไลน์という小説からである。後者の小説は原典にあてられていないが、コーパス内の文に「キーボードの上で指を止める」など表現があることや、そのタイトルに「オンライン」と入っていることから、pǒmの現れた例文は、メール、チャットなどでやり取りされた文面である可能性がある。
- 2) 出典情報は以下のとおり; Document Code: PRSH052, Title: มนตรีรักออนไลน์ของ iamyui นิตยสารดิฉัน, Domain: Imaginative, Genre: FICT ::W_fict_short_story, Publisher: 不明, Publish Year: 2553, Author: iamyui, Gender: 不明, Age: 不明。
- 3) 例文中のグロスはIwasaki & Ingkaphirom [2005] に従う。
- 4) mǎy (ใหม่) の口語体、máyを表記した異綴りだと考えられる。
- 5) 筆者が確認できたのは、1996年4月発行の1巻から2012年6月発行の33巻までである。
- 6) 注目に値するのは、野原しんのすけの自称の揺れである。野原しんのすけがpǒmを自称として用いるの

は、11巻p.9以降であり、それ以前はchán、phôm、rawなどを用いている。『クレヨンしんちゃん』がタイで出版されたのは、1996年4月であり、1巻から1997年3月発売の10巻まではpômが使われていない。翻訳者による違いが真っ先に疑われるが、1巻から11巻までは全て同じ翻訳者であることから、翻訳者による違いではない。翻訳者らへのインタビュー調査が必要になるが、未実施である。いずれにせよ、この事実はpômの出現と伝播を考察する上で特筆に値するだろう。

- 7) 「おやつ」の言い間違えである「おつや」のタイ語訳は、ここではkhōŋ-wáaj (ของว่าง) となっている。「おやつ」のタイ語訳はkhōŋ-wáan (ของหวาน) であるので、後部要素のwáaj (ว่าง) とwáan (หวาน) の相違によって言い間違えが表現されている。wáajは「空いた」、wáanは「甘い」をそれぞれ表す。
- 8) https://twitter.com/pbnj_ms
- 9) <http://pantip.com/topic/33200944>
- 10) http://www.dailymotion.com/video/xie5v0_panda-chuangchuang-ป-น-ม-เ-ห-ง-ห-ว-น-1_animals
- 11) 査読者の一人の査読コメントにて、「タイ語母語話者の言語学の研究者がkhráppômはネット上のスラングとして広まっていること、またkhráppômはpômよりも早くからネット上に見られていた」という認識のあることをご教示いただいた。今後の課題とさせていただきます。
- 12) なお、『クレヨンしんちゃん』の作中に登場する幼い女の子はchánを自称に用いていた。
- 13) 「おら」は現代日本語において、東北地方に方言としてみられる他、「田舎者」を表す役割語としても用いられ、男性が用いることが多いが、女性が用いるこ

ともある (cf. 『Dragon Ball』のチチ) [金水 2014: 59-62]。「孫悟空」に「オラ」が使われている理由として、「これは、主人公にあえて「田舎者」という性質を与え、(田舎者ゆえの) 純粹さや無垢などを強調する効果がある」と分析されている [金水 2014: 61]。

- 14) rawは一人称複数の代名詞「我々」として使われるのが最も一般的であるが、一人称単数の人称代名詞としても用いることができる。rawが一人称単数の代名詞として用いられる場合、日本語の「わし」に近いニュアンスを持つ [富田 1992: 1289r] といった説明の他、査読者の1名から、「友人の間では、年齢にかかわらず、かつ男女を問わず一人称代名詞・自称詞としてもよく用いられ、日本語の『わたし』や『ぼく』に近いニュアンスを持つ」とのコメントをいただいている。なぜ「孫悟空」の自称がrawなのかは、今後の課題とし、別稿に譲る。
- 15) 標準タイ語では、閉鎖音と流音の子音連続は、普段の会話では後部の流音が脱落するのが一般的である [cf. Iwasaki & Ingkaphirom 2005: 4, 5]。ただし、規範の求められる場面、例えばニュース報道などでは脱落せずに発音されると筆者は理解している。
- 16) ただし、文末詞khrápやkhápについては、タイ語の音韻体系に有声軟口蓋音のgが存在しないため、有声と無声の言い誤りが起き得ないと説明することもできる。
- 17) もちろん、各方言は声調の調値や一部の語彙によってさらに下位の方言群に分類可能である。
- 18) 北方言は「優美で美しい」言葉と評されることが多い。この「柔和」なイメージが<幼児語>と関係している可能性もある。

参考文献

【日本語文献】

- 金水敏 2003 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店。
 2013 「役割語研究の10年—日本大学国文学会講演記録—」『語文』147。
 金水敏 (編) 2014 『〈役割語〉小辞典』研究社。
 鄭 惠先 2007 「日韓対照役割語研究—その可能性を探る—」金水敏 (編) 『役割語研究の地平』くろしお出版。
 富田竹二郎 1992 『タイ日大辞典』めこん。
 野田雅子・岩村由美子・内藤啓子・飛鳥井きよみ 1969 「幼児の構音能力の発達に関する研究」『日本総合愛育研究所紀要』4: 153-171。
 細川裕史 2011 「コミック翻訳を通じた役割語の創造—ドイツ語史研究の視点から—」金水敏 (編) 『役割語研究の展開』

くろしお出版。

三谷恭之 1989 「タイ語」 亀井孝・河野六郎・千野栄一（編）『言語学大辞典 第2巻 世界言語編（中）』三省堂。

山口治彦 2007 「役割語の個別性と普遍性―日英の対照を通して」 金水敏（編）『役割語研究の地平』くろしお出版。

[外国語文献]

Bradley, Dan Beach 1873 *Dictionary of the Siamese Language*.

Cooke R. Joseph 1986 *Pronominal Reference in Thai, Burmese, and Vietnamese*. University of California Press.

Diller, Anthony 2008 “Introduction.” Anthony V. N. Diller, Jerold A. Edmondson and Yongxian Luo (eds.) *The Tai-Kadai Languages*. Routledge.

Gandour, Jack, Spranee Holasuit Petty, Rochana Dardarananda and Sumalee Dechongkit 1986 “The Acquisition and Dissolution of the Voicing Contrast in Thai.” *Linguistics of the Tibeto-Burma Area* 9(2).

Iwasaki, Shoichi & Preeya Ingkaphirom 2005 *A Reference Grammar of Thai*. Cambridge University Press.

Li, Fang-kuei 1977 *Handbook of Comparative Tai*. University of Hawai'i Press.

Noss, B. Richard 1964 *Thai Reference Grammar*. Foreign Service Institute.

Pittayaporn, Pittayawat 2009 Phonology of Proto-Tai. Ph.D. dissertation. Department of Linguistics, Cornell University.

Ruenruethai Satchaphan 2006 *Suntarirot haeng wannakhadi*.

Smalley, A. William 1994 *Linguistic Diversity and National Unity: Language Ecology in Thailand*. University of Chicago Press.

Smyth, David 2014 *Thai: An Essential Grammar* (2nd Edition). Routledge.

参考ウェブページ

Google Thailand (<https://www.google.co.th>)

Thai National Corpus (<http://www.arts.chula.ac.th/~ling/TNCII/>)

資料

Khun Pueak 1995 *Dragon Ball*. 7. Ned Comics. (鳥山明 1987 『ドラゴンボール』 7. 集英社。)

Matichon 2004 *Matichon Dictionary of the Thai Language*.

Ratchabandittayasatan 2013 *Photchananukrom chabap Ratchabandittayasatan*.

Suni Tangton 1996 *Khreyon chinchan*. 4. Ned Comics. (臼井儀人 1992 『クレヨンしんちゃん』 4. 双葉社。)

Suni Tangton 1997 *Khreyon chinchan*. 11. Ned Comics. (臼井儀人 1995 『クレヨンしんちゃん』 11. 双葉社。)

